

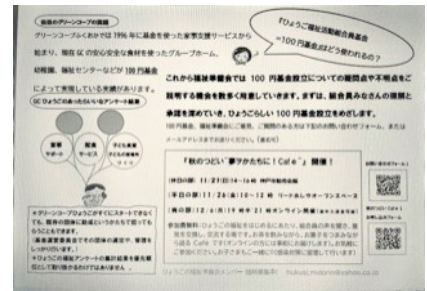
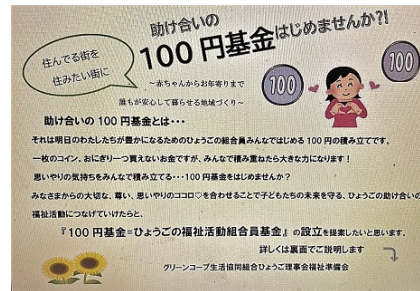
～住んでる街を住みたい街に～

グリーンコープ生活協同組合ひょうご 理事会

発行日：2021年12月6日

2022年度 福祉活動組合員基金の設立を目指します

10月25日週で
福祉活動組合員基金の提案の
チラシを配布しました。→→→



2021年6月8日に行われた第16期通常総代会で議案「ひょうごで福祉の活動を始めます」と、「夢ヲかたちに理事会の始動」が可決承認されました。その中で自分たちで福祉活動を行なう為に2022年度の福祉活動組合員基金の設立を目指す事を確認しています。

「夢ヲかたちに！理事会」が始動したことで夢を語り、今のひょうごで出来る福祉の活動を考え、組合員や地域に寄り添う形でのつどい場などの活動や子育てサークルの検討、子育てサポートの検討を始めています。

総代会の時に、グリーンコープ生協ふくおかの理事長であり、社会福祉法人グリーンコープの理事長でもある三原理事長よりグリーンコープ生協ふくおかで行われる地域福祉の取り組みや、社会福祉法人グリーンコープで行われる福祉事業のお話を聞きました。その中で、食事が満足に取れない子どもたちの話をソーシャルワーカーさんに聞いて朝食支援を始めた事、子育て中のママを支える子育てサポートを始めた事、お年寄りの家事サポートを始め、それが介護事業に発展したこと、地域の子どもたちの居場所等、組合員が必要と思った時に行動するために、福祉活動組合員基金を立ち上げていてよかったというお話をお聞きしました。現在はグリーンコープの事業基金※に支援してもらい行うだけのひょうごの福祉の活動ですが、更に充実、発展させていくためには自己資金となるひょうごの「福祉活動組合員基金」の設置が必要と検討しています

この検討を進めていくため、改めて組合員の皆さんに、グリーンコープ生協ひょうご（「夢ヲかたちに理事会」や「福祉準備会」）の活動や検討の様子をきちんとお伝えできるように、福祉準備会日より「夢ヲかたちにinひょうご」を発行することにし、今回はNo.2です。No.1で「福祉活動組合員基金（＝100円基金）」の全体像をお伝えしました。

今回は地域委員会より出た、ご意見・質問にお答えします。

この福祉準備会通信「夢ヲかたちにinひょうご」をお読みいただき、ご意見や感想・質問を届けて下さい。（右QRコード又はhukusi_midorin@yahoo.co.jpより）
ひょうごらしい福祉活動組合員基金の設立を実現し、組合員の皆さんとともに、地域福祉に取り組んでいきたいと思っております。今後とも宜しくお願いします。



※グリーンコープ連合の「事業基金」（仕入れ値引き）とは

1994年から取引先に対して1%の値引きをお願いし、その半額を「地域福祉」に活用するとした基金です。福祉の活動を始めるために自己資金のない単協に拠出していただけるものになっています。グリーンコープが連帯できているから受けることが出来る支援です。

「いのちを大切にすること」それはみんなが幸せに生きる社会の実現につながります。グリーンコープでは既に10年以上にわたって、この社会の実現のために取り組みを続けています。そういった活動を知り、福祉活動組合員基金=100円基金の必要性を知った私たちがひょうこの組合員の皆様に福祉活動組合員基金=100円基金について知って頂き、組合員みんなで取り組む基金となるよう提案していきます。

福祉準備会

今回は福祉活動組合員基金について、まずは理事会や地域委員会で意見交換をしました。その中で出た質問や意見について応答します。

～ 生協がどうして福祉に取り組むの？～

【グリーンコープの歴史】

1960年代の水俣病やカネミ油症などがきっかけで、食の安全を求めて自分たちが子どもたちに食べさせたい商品を求めて、お母さんたちが生協を作るようになりました。

グリーンコープもそんな安心安全を求める小さな生協が集まって、グリーンコープ連合会として1988年に生まれました。ほんもののたべものについて考え、緑の地球を緑のまま未来の子どもたちに残したいと、環境や農業問題にも取り組んできました。

ネグロスの飢餓を知ると現地に行って、自分たちに何ができるかと考えそこから民衆交易が始まりました。支援するだけでなく、自分たちが求めるたべものを作ってもらい、対等な関係を築き、交流し続けています。

【中期計画基本構想案「夢ヲかたちに」】

安全なたべものを求めて、安心して食べられる商品を生み出してきたグリーンコープ生協ですが、その一方で、食べ物以外の組合員のくらしを取り巻く様々な問題が見えてきました。

1992年、各グリーンコープ生協の組合員の代表である理事長達が集まって「組合員の未来のために、グリーンコープは何を目指すのか」について語りあいました。そしてこれからのグリーンコープの活動の方向性をまとめた中期計画基本構想案「夢ヲかたちに」が整理されました。

この構想の中で「教育・文化」「地域福祉」「環境・農業」の3つのテーマが提起され、地域福祉については、組合員のくらしの状況や組合員が必要としている事をアンケートで調査し、その具体化が進められました。迫りくる少子化、高齢化社会、地域で共同する助け合いの仕組みなど、今でも社会の課題となっていることが、30年近く前からグリーンコープでは考えられ、介護保険制度が無い時代から福祉に着手してきました。

【グリーンコープの目指す福祉とは】

「赤ちゃんからおとしよりまで安心して暮らせるまちづくり」をテーマに！！

- 3つの基本の考え方
1. 全ての組合員にとって利益が享受できること。
 2. ハンディの重い人が最も大切にされること。
 3. 地域に開かれたものになっていること。

誰かがしてくれるのではなく、行政や地域と連携しながら、自ら作り出す、参加型地域福祉を目指します。

～基金の使い道が具体的に知りたい～

福祉活動組合員基金は「何かに使って下さい」というようなお金の出し方ではなく、「こんな活動に使いたい」と皆で声を出し合い、「福祉の充実を図っていこう」という意見や活動を作り出していくことに大きな目的があります。この大切な基金を、福祉の充実に向けて、無駄のない、柔軟な活かし方をしていくために、基金運用委員会を設置します。

基金運用委員会には2つの大きな役割があります。1つは、基金に対する組合員の声や希望を集約すること、もう一つは、組合員から集めた基金を1円でも無駄にしないように、組合員や地域から出された申請について内容をしっかり検討して、どれだけの金額を助成するかを決める事です。組合員の声や希望に沿って、さまざまな形で福祉活動組合員基金を活用していきます。

～地域間の格差が無いように進めて欲しい～

福祉活動組合員基金は、「組合員自身のために使われること」「福祉のために使われること」が前提で、地域の組合員が参加出来る学習会や講演会、このほか親子料理教室や研修や実習など、たくさんの事が実現可能です。基金の運用は、生協からの助成申請や地域の団体からの助成申請を、各地区から選出された基金運用委員が組合員の視点で検討して決定していくこととなります。但し、全ての地域のすべての要望に対して同時に応えられるわけではありません。状況や条件に応じて、実現できるところから取り組んでいきます。積極的に自分たちの地域で何ができるか、何が必要かを出し合って具体化していくことが出来ます。

～私には福祉は必要ないのに、全員制はおかしいと思う～

ひょうごでの福祉活動組合員基金の設立は全員制で進めたいと考えています。

全員制の意義が3つあります。

1つは「みんなで少しずつ出し合うこと」です。今、困っている人は身動きがとれません。困っていない人の助けが必要です。今困っていない人も、突然手助けが必要となるかもしれません。

2つ目は「ほどこす人—ほどこされる人」という関係ではなく「お互いが対等に支え合う」ことです。

3つ目は、たくさんの人の参加で「やれる力を生み出すこと」です。たくさんの人に呼びかけて意見を出し合い、日頃意識していなかった福祉の現状や自分や家族の将来のことも考え合うことが出来ます。

このような趣旨で「全員参加」を呼びかけた上で、抛出については個人の意思を尊重することにしていきます。基金設置が決定された後に、抛出は最終的に個人の意思を尊重することになります。直ちに同意いただけない（未同意）場合もある、途中で抛出をやめるという場合もあると思いますが、今後も継続して福祉活動組合員基金への参加にご理解いただけるよう取り組みを継続していきたいと思えます。

～自分には必要性を感じないから参加したくない～

現在困ったことに直面していない方にとって、必要性や意義は実感できないかもしれません。しかし、これからの社会は「共助」の仕組みを広げていかないと次の世代の担い手である子どもたちに経済的にも労力的にもつらい社会を残すこととなります。そのため福祉活動組合員基金は、「全員参加」によって「互いに支え合う」という関係を広げていきたいと考えています。私たちはいつ何が起こるかわからない時代に生きています。「共に助け合う仕組み」を創るための財源として、福祉活動組合員基金へのご理解とご協力をお願い致します。

～100円基金を活用するビジョンを教えて欲しい～

☆☆設立したら・・・担いたい人がいて、出来る事から始めます。☆☆

子育て応援の取り組み

子育て応援の取り組みを各地域で開催します。

*会場での託児・子育て講座・産前産後のお母さんへの寄り添い・母親のレスパイト（息抜き）・こどもの居場所・子ども料理教室等

組合員の暮らしをサポート

高校生や大人向けのお金の使い方講座、家計簿クラブ、お小遣いゲーム等でライフプランニング活動を推進

各地域にワーカーズを

ワーカーズとはボランティアでもなく、誰かに雇われるのでもなく、生活者の視点から地域に必要な「もの」や「サービス」を事業化するために、自分たちで出資して経営も労働も担う新しい働き方です。

他県のグリーンコープでは、「生きがいが欲しい」、「人の役に立つことがしたい」、「一緒に子育ての事を考えたい」、「家事能力を生かしたい」等の思いを持った4,700人以上が、ワーカーズとして活躍しています。

現在ひょうごでは「ワーカーズ虹色」の中に子育て応援の託児等が組み込まれています。「子育て応援ワーカーズ」の立ち上げ、他にもワーカーの育成を行い、「家事サポートワーカーズ」や「食育ワーカーズ」等の立ち上げを目指します。

☆☆☆そして将来（10年後?）…「社会福祉法人グリーンコープひょうご」となって

デイサービス等の建設準備

グリーンコープのデイサービスセンターや配食センター、子どもの一時預かり、障がい者の職業訓練等出来る複合的な福祉施設の設置を目指します

社会法人グリーンコープ
紹介の動画→→
「共に生きる」2019



私たち組合員一人一人の力からを合わせてつくっていきましょう！

設立について決議するのは、組合員の代表が集まって生協の年度の活動報告や方針を決議する総代会です。総代会は年に1回6月に開催し、必要に応じて臨時総代会を開催しています。総代立候補の募集は始まっていますので、是非総代に立候補して総代会で福祉活動組合員基金についての決議に参加してください（書面議決も出来ます）
福祉活動組合員基金設立についてのご意見や感想・質問も随時受付けています。是非お声を届けてください（右QRコード又はhukusi_midorin@yahoo.co.jpより）

また、福祉準備会ではひょうごで行う福祉の活動について毎月1回話し合っています。参加については上記QRコードかメールアドレス又は組合員事務局までお問い合わせください。（Tel）072-777-7641



※現在ひょうごであったらいいな・「夢」として出されている活動の希望※

定期的なつどい場や子どもの居場所の設置（会場費・雑費・スタッフの活動費等運営費）
子育てサポート（託児やママの寄り添い・運営費）
家事サービス（困りごとのお手伝い・運営費・ワーカーの育成）
配食サービス等（運営費・ワーカーの育成・キッチン）

《参考》

他県では、ふくし電話・子育て講演会・福祉講演会、社会福祉法人グリーンコープによる保育園・居宅介護支援・訪問介護・障害福祉サービス・職業訓練・それらが複合的にある「ふくしセンター」、買い物支援・学校法人グリーンコープの幼稚園、等多様な活動が行われています。